

かとうゆうすけ 横須賀市議会議員/無所属/30歳

- 1988年 3月8日生 浦上台出身/在住
- 浦賀小学校・浦賀中学校卒
- 特技:中国語 ■趣味:ドラム ソフトテニス 釣り カラオケ
- 2006年 県立横須賀高校(58期)卒業 ソフトテニス部
- 2007年 吉田雄人インターンシップ生
- 2008年 南開大学(中国・天津)へ派遣交換留学
- 2010年 慶應義塾大学法学部政治学科卒
(株)ワーク・ライフバランス インターンシップ生
- 2012年 アクセンチュア(株)退社、復興支援のため福島に移住し、
復興支援団体 (一社)BridgeforFukushimaの職員として勤務。
- 2014年 復興庁福島復興局政策調査官を兼任。
- 2016年 4年半の復興支援を経て、横須賀へ戻る。
- 2017年6月25日 横須賀市議会議員当選。
会派 無所属みらい 委員会:教育福祉常任委員会

加藤 ゆうすけ



090-7710-7281(本人携帯)

<http://katoyusuke.net>

mail@katoyusuke.net



加藤ゆうすけ



@katoyusukeYK



報告

病院、学校など「公共施設はどうあるべきなのか」が問われた12月定例議会でした。

8月21日の市立うわまち病院移転建替え方針発表で一気に注目を浴びた市立病院のありかた、逸見小学校校舎内に来年度から新設される市立放課後児童クラブの利用料など、公共施設のありかたが問われた議会でした。

●公共施設のありかたに関する、12月定例議会のおもな審査事項

●教育福祉常任委員会(および予算決算常任委員会教育福祉分科会)

①本市で初めて逸見小学校に公設される放課後児童クラブ(通称:学童クラブ)の保護者負担は13,000円/月になります。(議案129号)

②市立2病院の病床機能別病床数(患者の状態に合わせた入院ベッドの数)について、生死に関わる状態の患者の救命を担う高度急性期(211床)・急性期(446床)については、2025年になっても同数を維持します。(健康部一般報告)

③請願第11号「市立うわまち病院移転計画の再考および上町地区の包括的地域振興対策の検討・策定について」が提出され、内容が一部採択(移転計画の再考はしないが、移転について一層の説明と住民理解を得る努力をすることと、上町地区の地域振興対策を検討・策定することは採択)されました。

●総務常任委員会(および予算決算常任委員会総務分科会)

①産業交流プラザの指定管理者が、(一社)シティサポートよこすかから、(株)セイウンに変わります。指定期間は2019年4月1日から2024年3月末までです。(議案第137号)

②「公の施設の使用料に関する基本方針」をつくり、公共施設使用料を見直し、利用者負担を考えます。2020年4月適用予定です。(財政部一般報告)

③市内に点在する歴史遺産を紹介するルートミュージアム事業の中核拠点施設として、ティボティエ邸がヴェルニー公園内に再現されます。(文化スポーツ観光部一般報告)

④2019年3月末閉店予定であったよこすかポートマーケットが、事業者の皆様の運営によって1年延長運営の見込みです。(経済部一般報告)

●生活環境常任委員会(および予算決算常任委員会生活環境分科会)

①南処理工場(久里浜)は2020年3月にその役目を終え、新しいごみ処理施設(長坂)が同月本格稼働します。(資源循環部一般報告)

●都市整備常任委員会(および予算決算常任委員会都市整備分科会)

①本公郷改良アパート(公郷町2-22)の建替え事業者が決まり、余剰地にコンビニと福祉NPO拠点をつくる提案が事業者からなされました。来年度から順次建替えが始まり、2025年度までかかる見込みです。(議案第144号)

私の一般質問では、「スクールコミュニティの目指すもの」「高校生の市内就職促進」について質疑しました。



■「スクールコミュニティ整備事業」を巡る経緯

本年度開始の新規事業「スクールコミュニティ整備事業」については、9月定例議会で、スクールコミュニティとは「地域において歩いて行ける『小学校』という場」に着目し、『子どもたち』をキーワードに地域のコミュニティ力を高めていくこと」と説明を受けました。本年度は地域(汐入小学校区)との合意形成、学校関係者との協議等、次年度に世代間交流を推進する枠組み作り、教室等の改修、地域コミュニティ団体の移転、そして2020年度にモデル事業の開始・・・という計画が、市長の掲げた4年間の計画「横須賀再興プラン」に記されているものの、そもそも具体的に何をやるのか一向に見えてきませんでした。

■ ■ ■ スクールコミュニティについて、質疑を経てわかったこと ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

- ・市長自身、「何をもってスクールコミュニティの完成なのかはわからない」としている。
- ・これまで地域コミュニティに関わってこなかった新たな人材の発掘をねらっている。
- ・市長は、「最も横須賀にとって大切なのは何か試行錯誤しながら、地域の皆様と相談していくためには、核となりうるのは学校という空間であり、場所ではないかと思っている」と答弁し、市民ニーズの拡大を受け機能別・目的別に分化していった諸施設を見つめなおし、学校を理想的な場にしていきたいと考えている。
- ・一方で、学校施設を管理体制をどうするのか、そもそも教室の改修が必要なのかどうかについては、地域の市民の議論を経た上で決めることであり、再興プランで記した4年間の計画は変わりうるとしている。
- ・スクールコミュニティの内容について子どもの意見をワークショップなどで直接きいてから決定することや、スクールコミュニティを子どもの居場所づくりの観点からとらえる考えに、市長は共感している。



■ 私が「スクールコミュニティ」に注目しているもう一つの理由

本事業は、『学校(施設)を地域の核にしよう』という、昔からありながらも、なかなか実現出来ていなかった新しい動きでもあります。本市の所有する公共施設の面積の43.1%は学校なので、学校施設が、こどもの学び舎としてだけでなく、地域の核として多機能化していくと、本市の公共施設のありかたは大きく変わることになります。

さらに

■ 高校生の市内就職促進について

人材不足が深刻な本市で、市内高校卒業後、市内企業に就職するのはたった2割という現状について質疑しました。市長からは、「横須賀市の高校生が必要だという企業を集めて、その説明会を積極的に高校に対して働きかける、マッチングの労をとるなど行政として考えたい」と、非常に前向きな答弁を得られました。



■ 議員インターンシップ、随時募集中 ※高校生・大学生歓迎
横須賀のこと、仕事のこと、政治のことを考えるきっかけに、一緒に動いてみませんか？mail@katoyusuke.net か、右のQRコード(本人LINEアカウント)へご連絡ください。

